

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	大館市児童発達支援センターひまわり			
○保護者評価実施期間	令和 6 年 1 2 月 2 4 日		～	令和 7 年 1 月 2 4 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2 7 名	(回答者数)	2 4 名
○従業者評価実施期間	令和 7 年 1 月 6 日		～	令和 7 年 1 月 2 4 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6 名	(回答者数)	6 名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 2 月 2 8 日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園のため、子ども支援だけでなく、保護者や兄弟児の相談にもすぐに対応できる。（子どもや保護者の変化に気づける）	日常的に保護者とコミュニケーションを取り、子どもの成長や保護者の悩みに気づき、声をかけて引き出すようにしている。 事業所内だけで解決できない場合は、関係機関と連携しながら対応している。	きょうだい児支援も兼ね、イベントへの参加を行う予定。
2	移行支援への対応	就園や就学の際、見学や体験時同行し、就園、就学先決定まで保護者と一緒に子どもにとって安心できる場、子どもの持てる力を引き出せる場を検討している。 就学の際は、年中児から市の就学教育相談を進め、特別支援教育アドバイザーと共に学校見学をし、年長児には体験を進める。心理士による発達検査の結果を踏まえ、保護者との合意形成に努めている。	引き続き、子どもの発達を踏まえ、保護者に寄り添った支援をしていく。
3	保護者学習会や交流会を行っている。	月1回程度、保護者学習会を行い、就学に関してや子どもの気になる行動への対応の仕方、障害理解など情報を提供している。 巡回支援専門員によるペアレント・トレーニングも行っている。 卒園した児童の保護者による体験談などを通して保護者同士が相談し合える機会を設けている。	引き続き、保護者が必要としている情報提供をし、支援していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	3歳児以下の登園日、人数が多くなることで規定は満たしているものの、一人一人に手厚く接することができず、職員不足を感じさせてしまう。	3歳児以下の登園日は保護者がいてもフォローが必要なため、人手不足を感じてしまうのではないかと。 未満児の新入園が重なり、人数も増えたためではないかと。	登園人数が多い日はできるだけ、訪問支援員がフォローに回れるようにしていく。 新入園が同時期に重ならないよう段階的に受け入れていく。
2			
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		大館市児童発達支援センターひまわり							
		公表日 令和 7 年 2 月 2 8 日							
		利用児童数				令和7年 1月 1日		回収数 24/27（世帯）	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	24						
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	21	3			児童の人数が多い時は職員の人数が少なく感じることもある。	児童数に対しての配置人数は満たしておりますが、1～2歳児が秋以降増えたことで、人手を要する場面が見られたことが要因と思われます。安心して過ごせるよう対応していきます。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	24						
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	24				子どもが紙めたり、口に入れたおもちゃを消毒してほしい。	毎日玩具の消毒をし、気づいたときも消毒をしております。かごを用意し、舐めた玩具を入れてもらうようにしました。しっかりと消毒後に提供するよう対応していきます。	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22	1		1	異なる特性の子どもに対して同じ内容なのは良いのか？療育としては専門性のある支援は不十分だと思う。個別指導を増やしてほしい。知育玩具を自由に使わせてほしい。	特性や障害別に療育を行うことが理想ですが、保護者の方も仕事をしている方がほとんどで、特性別クラスにすることで、登園日が限られると、登園できなくなる子が増えると思われます。現状では厳しい状況。個別指導の回数増加は厳しい状況。内容は親子で取り組める課題も多くありますので、遊びの時間に教具の提供をしていきます。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	18	1		5			
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	24						
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	21			3			
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23	1					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	3			固定化されていると思うこともある。	年間を通してステップアップできるようプログラムを作成しています。繰り返していくことで身につく活動は繰り返し行うこともあります。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	13	1	3	7		利用児童のほとんどが保育所や認定こども園、幼稚園等を併用しており、定期的に交流しているお子さんがほとんどです。毎年10月に風北地区集団療育訓練交流会があり、他の地域のお子さんとも交流できる場も設けておりますが、大館市は参加者が少ない状況です。ぜひ参加してください。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	24						
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24						
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	23			1			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	24						
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	24						
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	24						
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	3	1	9	きょうだいへの支援があるかわからない。	父母の会はありませんが、保護者学習会、保護者交流会など月1回程度行っております。ぜひ参加してみてください。きょうだいへの支援については来年度へ向け検討中です。	
19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22			2				

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22	1		1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	4		6	ホームページ・SNS等は分らないが、通信で行事予定、活動概要等は発信されている。	毎月のおたより発行。緊急時に関しては一斉メールで配信しております。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19	3		2		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	17	2		5		入園のしおり等に記載しております。玄関スペースに各種マニュアルを閲覧できるようにしております。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19	2		3		毎月、避難訓練を行い、年1回総合避難訓練を行っています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	22			2		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	17	2		5		保護者の皆様のご協力のおかげで、大きな事故やけがはありませんが、子ども同士衝突した場合など、即対応しております。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	23			1	親より先生方と一緒に活動するのが好きです。	保護者の方が一緒にいることで安心してお子さんも職員に甘えたり、他の保護者に近づいて行ったりできていると思います。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	19	2		3		
	29	事業所の支援に満足していますか。	23	1			楽しみながら気軽に通えている。外遊びや水遊びができれば楽しそうだなと思います。	昨年9月に移転し、整備・点検も終了したため、今後は戸外遊びも取り入れていく予定です。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		大館市児童発達支援センターひまわり					公表日	令和 7 年 2 月 2 8 日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6					
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	外部評価は行っていない。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6					
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		年間を通してステップアップしていける内容を心掛けている。繰り返し行うことで身につけていく活動は繰り返すこともある。			

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		保育所等訪問支援を通して行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		直接、間接的に情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	6		併用している児童もいるため、年数回情報共有をし、成長した点や課題となる点などを話し合っている。	年間計画を立て、年数回行っていく予定。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6		巡回相談時、秋田県立医療療育センター公認心理士による助言を受けている。子ども課公認心理士、巡回支援専門員、家庭相談員、関係機関と連携を図っている。研修等へは積極的に参加している。	
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6			
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		利用児童の9割以上が保育所や認定こども園、幼稚園等と併用しており、日常的に交流している子が多い。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		親子通園のため、常に声を掛け合い、必要に応じてすぐに相談できるよう心掛けている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		巡回支援専門員によるペアレント・トレーニングを行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		支援プログラムは作成中。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		保護者交流会、学習会を月1回程度行い、交流する機会を設けている。兄弟児交流に関しては来年度実施に向け、検討中。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		緊急時は一斉メール配信を行っている。毎月のおたより発行。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		民生委員、地域のボランティアグループに来てもらっている。実習生の受け入れをしている。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		医師の指示書に基づき、対応している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		保護者も一緒にいるため、未然に防げることが多いが、玩具を口に入れるなどあるため、再発防止に向け、記録をし、所内で再発防止に向け、検討し、対策をしている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		研修を受け、気づきの段階から通報、通報義務など職員間で共有している。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6			